

## 10. 学術委員会報告

日本数学会国際研究集会 (MSJ-IRI) について、2件報告します。

### I. 第13回 MSJ-IRI について

#### 2004 年度第 13 回日本数学会国際研究集会 「モジュライ空間と数論幾何」 (Moduli Spaces and Arithmetic Geometry) についての報告

組織委員会：向井 茂 (委員長, 数理解析), 森脇 淳 (副委員長, 京大), 宮岡洋一 (東大), 森 重文 (数理解析), 中村 郁 (北大), 齋藤政彦 (神大), 加藤文元 (京大)

主催：日本数学会, 京都大学数理解析研究所, 京都大学大学院理学研究科

会場：京都大学, 数理解析研究所420号室

開催日時：2004年, 9/8(水) ~ 9/15(水)

参加者：153名

国内参加者：133名

国外参加者：20名

問い合わせ先：

京都市左京区北白川追分町京都大学大学院理学研究科数学教室

森脇 淳

電話：075-753-2673

e-mail：moriwaki@math.kyoto-u.ac.jp

上記研究集会が、

「代数幾何学はその発展の当初から整数論との関係が深い。特に、モジュライの研究と数論幾何は手法と重要なアイデアを共有している。最近、研究の進展と分化のために、ややもするとそれが見えにくくなっている嫌いがあるので、両者からテーマを厳選して研究集会を催す。これによってそれらの理解を深めるとともに新たな展開の可能性を探っていきたい。」

の目標を掲げ開催された。具体的には、以下の5名の講演者がそれぞれのテーマで連続概括講演を行い、

1. C. Faber (Stockholm)：曲線とアーベル多様体のモジュライ空間
2. 望月新一 (京大数研)：遠アーベル幾何
3. 向井 茂 (京大数研)：ベクトル束のモ

ジュライ空間

4. C. Soulé (仏 IHES)：アラケロフ幾何
5. 藤原一宏・加藤文元 (名大多元・京大理)：Rigid analytic geometry の基礎と応用

さらに、

N. Nitsure (印 TIFR), A. Beauville (仏 Nice), C. Voisin (仏 Paris), R. Hain (米 Duke U.), Y. Laszlo (仏 Paris), 加藤和也 (京大), 中村 郁 (北大)

の7名の方には最近の研究成果を発表していただいた。より詳しくは、以下のホームページをご覧ください。

<http://moduli.math.kyoto-u.ac.jp>

また、報告集は日本数学会の Advanced Studies in Pure Mathematics のシリーズから刊行される予定である。

(文責：組織委員会副委員長 森脇淳)

### II. MSJ-IRI の枠組みの見直しについて

数学通信第9巻第2号でお知らせしました通り、秋季総合分科会期間中に開催した学術委員会定例運営委員会で、日本数学会国際研究集会 (MSJ-IRI) の見直しを開始しました。当日の審議では、国際研究集会に対する助成の環境が大きく変わったことを背景に、日本数学会の主体性および独自性をより鮮明にした企画にリニューアルすることが望ましいという結論に至り、時間をかけて改革案を作ることになりました。

MSJ-IRI はテーマ公募から開催まで約2年半の時間をかけて実施され、現在は平成18年度開催の第15回までの計画が進行中です。例年ですと、平成17年2月に数学通信紙上で平成19年度開催の第16回のテーマ募集を行うところですが、見直し案審議のための期間として1年を見積もり、

#### 平成19年度 (2007/8年度) は 日本数学会国際研究集会 (MSJ-IRI) を開催しない

ことを決め、評議員会で了承をえました。新鮮な企画を立案し、平成20年度からの再開を目指します。この件に関するご意見を、随時学術委員会運営委員までお寄せ下さい。

会員の皆さまのご協力を、よろしくお願い  
申し上げます。

（学術委員会委員長 小島定吉記）